

FISCO FX Report

FISCO Forex

週刊 為替情報誌

2007年3月26号

為替週間日誌 世界株価反発を受けて円売り再開	Page 2
週間要人発言	Page 5
週間経済指標一覧	Page 9
為替週間見通し 日米経済指標を材料に方向探る	Page11
コラム/為替総合分析 ゴルフと相場 (41)/米国データウオッチ	Page12
チャート分析 ドル・円、ユーロ・円	Page14
週間スケジュール	Page16
主要国経済指標の現況	Page17

最終的な投資判断はご自身でお願いいたします。本文、データなど当レポートの内容に関する正確性、信頼性、安全性などから起因する直接的、間接的あるいは程度を問わず、(株)フィスコおよびその制作者、データ提供者、その他関係者は一切の責任、損害賠償に応じません。また、当レポートの本文、データなどは著作権などの法律、規制により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外規定は除く)。以上の点をご了承の上、当レポートをご利用ください。

為替週間日誌

「世界株価反発を受けて円売り再開」

先週の動き

(16日)

海外：【ロンドン市場概況】日本、中国の株式市場が下落したことを受けた円買いやスイスフラン買い、米国の経済指標発表を控え、米スタグフレーション観測からのドル売りが優勢になった。ドル・円は117円02銭から116円51銭まで下落、ユーロ・円は155円68銭から155円24銭まで下落、ユーロ・ドルは1.3296ドルから1.3340ドルまで上昇、ポンド・ドルは1.9401ドルから1.9489ドルまで上昇、ドル・スイスは1.2099フランから1.2037フランまで下落した。

【ニューヨーク市場寄付】ドル・円：116円62銭、ユーロ・ドル：1.3331ドル、ユーロ・円：155円42銭、ポンド・ドル：1.9485ドル、ドル・スイス：1.2052フラン。

【ニューヨーク市場概況】ドル・円は予想以上に強い米2月CPIが根強いインフレを示し、加えて米2月鉱工業生産が昨年11月来の伸びを記録した事を受けた債券利回り上昇に116円56銭から117円00銭まで上昇したが、株式市場の失速を受けて116円60銭まで反落して引けた。ユーロ・ドルは米金利上昇やユーロ・円下落に絡む売り圧力を受けて1.3336ドルから1.3303ドルまで軟化し、1.3315ドル前後で取引を終えた。ユーロ・円は不安定な株式市場動向を受けたリスク回避のキャリートレード手仕舞いに155円86銭から155円22銭まで下落した。ポンド・ドルは1.9505ドルから1.9398ドルまで下落し、ドル・スイスは1.2035フランから1.2086フランまで上昇した。NY原油先物価格はイラン大統領の国連訪問観測をきっかけに58.25ドルから56.25ドルまで下落し、57.11ドルで引けた。

【ニューヨーク市場終値】ドル・円 116.70、ユーロ・ドル 1.3318、ユーロ・円 155.42、ドル・スイス 1.2070、ポンド・ドル 1.9428、NYダウ 12110.41、ナスダック 2372.66。

東京-NYレンジ：ドル・円 116.51-117.59、ユーロ・ドル 1.3234-1.3340、ユーロ・円 155.22-155.86

(19日)

東京：ドル・円は、中国人民銀行による3/17(土曜日、夕刻)の政策金利引き上げを受けて116円56銭から116円25銭まで下落したものの、本邦輸入企業からのドル買い圧力強く、東京、上海株式市場が堅調に推移したことから、米系ファンド筋からの大口の買いで117円45銭まで反発した。ユーロ・円も154円79銭まで下落後、156円35銭まで反発した。ユーロ・ドルは、1.3285ドルから1.3325ドルまで堅調推移。ポンド・ドルは、1.9397ドルから1.9435ドル、ドル・スイスは、1.2047フランから1.2107フランで推移。豪ドル・円は、93円46銭から92円27銭、NZドル・円は、81円91銭から80円86銭、カナダ・円は、99円89銭から98円73銭、ポンド・円は、227円93銭から225円33銭で推移した。中国人民元：高値7.7355元、安値7.7330元、7.7350元付近で推移。

海外：【ロンドン市場概況】ロシア筋からといわれるポンド・円の買いをきっかけに円売りが先行し、その後一般的なドル買いが強まったことから、ドル・円は117円11銭から117円63銭まで上昇した。ユーロ・円は155円88銭から156円31銭まで上昇し、ポンド・円は227円60銭から228円50銭まで上昇した。円売り一巡後は調整気味になり、ドル・円は117円34銭に反落、ユーロ・円は156円割れ、ポンド・円は228円割れになった。ユーロ・ドルは1.3317ドルから1.3280ドルまで下落、ポンド・ドルは1.9423ドルから1.9458ドルで上下し、ドル・スイスは1.2074フランから1.2130フランまで上昇した。

【ニューヨーク市場寄付】ドル・円：117円51銭、ユーロ・ドル：1.3296ドル、ユーロ・円：156円24銭、ポンド・ドル：1.9459ドル、ドル・スイス：1.2136フラン。

【ニューヨーク市場概況】ドル・円はダウ平均株価の100ドル超の上昇受けたリスク後退でキャリートレードが再開し、米系筋主導の買いに117円25銭から117円77銭まで上昇し、117円53銭で引けた。ユーロ・ドルは米株式市場の上昇を受けたドル買いに1.3308ドルから1.3283ドルまで下落し、1.3303ドルで取引を終えた。ユーロ・円は円キャリートレードの再開などを受けて156円02銭から156円59銭まで上昇した。ポンド・ドルは1.9474ドルから1.9419ドルまで下落し、ドル・スイスは1.2101フランから1.2150フランまで上昇した。

為替週間日誌

先週の動き

NY 原油先物価格は、中国など主要国の需要鈍化観測などから 56.35 ドルまで下落し、56.59 ドルで引けた。

【ニューヨーク市場終値】ドル・円 117.53、ユーロ・ドル 1.3303、ユーロ・円 156.32、ドル・スイス 1.2125、ポンド・ドル 1.9442、NY ダウ 12226.17、ナスダック 2394.41。

東京-NY レンジ:ドル・円 116.25-117.77、ユーロ・ドル 1.3280-1.3325、ユーロ・円 154.79-156.59

(20 日)

東京:ドル・円は、休日前の 5・10 日要因での仲値不足から、117 円 30 銭から 118 円 02 銭まで上昇したものの、118 円台ではドル売り圧力強く、上げ渋った。ユーロ・円も 156 円 10 銭から 156 円 97 銭まで連れ高に推移した。ユーロ・ドルは、1.3314 ドルから 1.3276 まで軟調に推移した。ポンド・ドルは、1.9435 ドルから 1.9491 ドル、ドル・スイスは、1.2113 フランから 1.2157 フランで推移。豪ドル・ドルは、10-12 月期住宅着工件数の減少を受けて、0.8030 ドルから 0.7964 ドルまで下落、豪ドル・円も、94 円 35 銭から 93 円 85 銭まで下落した。NZ ドル・円は、82 円 82 銭から 82 円 42 銭、カナダ・円は、100 円 16 銭から 99 円 70 銭、ポンド・円は、229 円 63 銭から 228 円 08 銭で推移。中国人民元:始 7.7390 元、高 7.7399 元、安値 7.7370 元、7.7370 元付近で推移。

海外:海外:【ロンドン市場概況】イギリスの 2 月消費者物価の上振れをきっかけにポンド買いが強まり、ポンド・ドルは 1.9433 ドルから 1.9565 ドルまで上昇、ポンド・円も 229 円 03 銭から 230 円 57 銭まで上昇、ユーロ・ポンドは 0.6837 ポンドから 0.6790 ポンドまで下落した。ユーロ・ドルはクロス取引に影響され 1.3306 ドルから 1.3271 ドルまで軟調推移、ドル・円は 117 円 73 銭から 117 円 99 銭で上下し、ユーロ・円は 156 円 60 銭から 156 円 85 銭に上昇後 156 円 35 銭まで下落した。ドル・スイスは 1.2127 フランから 1.2162 フランまで上昇した。

【ニューヨーク市場寄付】ドル・円:117 円 81 銭、ユーロ・ドル:1.3289 ドル、ユーロ・円:156 円 52 銭、ポンド・ドル:1.9567 ドル、ドル・スイス:1.2139 フラン。

【ニューヨーク市場概況】ドル・円は、周小川中国人民銀行総裁の「中国は外貨準備を一段と積み上げる意向を持たない」との発言や、米サブプライム(信用度の低い人向け)住宅ローン貸出業者の一つが米破産法 11 条の適用を申請したとのニュースを受けて、リアルマネー主導の売りに 117 円 85 銭から 116 円 92 銭まで下落し、安値圏 117 円 29 銭で引けた。ユーロ・ドルは、著名ニューヨークコンサルティング社がレポートの中で「ECB は 6 月に利上げを実施後は利上げ休止する可能性」との見解を示したとの話題や、予想を上回る米住宅着工件数を受けたドル買いに 1.3281 ドルまで下落したが、サブプライム問題に伴う米金利低下に 1.3323 ドルまで反発し、ほぼ高値 1.3318 ドルで引けた。ユーロ・円はサブプライム問題再燃を嫌気したりリスク回避の動きに 156 円 60 銭から 155 円 60 銭まで下落した。ポンド・ドルは 1.9556 ドルから 1.9625 ドルまで上昇し、ドル・スイスは 1.2147 フランから 1.2109 フランまで下落した。NY 原油先物価格は 1/31 以来の安値 56.10 ドルまで下落後 56.73 ドルで引けた。

【ニューヨーク市場終値】ドル・円 117.29、ユーロ・ドル 1.3318、ユーロ・円 156.21、ドル・スイス 1.2117、ポンド・ドル 1.9614、NY ダウ 12288.10、ナスダック 2408.21。

東京-NY レンジ:ドル・円 116.92-118.02、ユーロ・ドル 1.3271-1.3323、ユーロ・円 155.60-156.97

(21 日)

東京:ドル・円は、東京市場休場、米 FOMC を控えて、117 円 20 銭から 117 円 36 銭で小動きが続いた後、欧州勢参入によりクロス円の買いが優勢になったことから 117 円 61 銭まで上昇した。ユーロ・円も 156 円 05 銭から 156 円 58 銭まで上昇した。ユーロ・ドルは、1.3304 ドルから 1.3324 ドルで、ポンド・ドルは、1.9611 ドルから 1.9653 ドルで、ドル・スイスは 1.2116 フランから 1.2137 フランで推移した。豪ドル・円は、94 円 28 銭から 93 円 92 銭、NZ ドル・円は、82 円 92 銭から 82 円 58 銭、カナダ・円は、101 円 19 銭から 100 円 85 銭、ポンド・円は、230 円 84 銭から 229 円 87 銭で推移した。中国人民元:始 7.7355 元、高 7.7356 元、安 7.7335 元、7.7344 元付近で推移。

海外:【ロンドン市場概況】ドル・円は、中国株式市場の最高値更新を受けたクロス円の買いに連れて 117 円 44 銭から 117 円 84 銭まで上昇した。ポンド・円は 230 円 54 銭から買いが先行、3 月の英中銀金融政策委員会議事録を受けて一旦 230 円 08 銭まで下落後、231 円 15 銭レベルまで上昇した。ユーロ・円は 156 円 35 銭から 156 円 77 銭まで上昇した。ポンド・ドルは 1.9648 ドルから 1.9556 ドルまで下落後 1.96 台回復、ユーロ・ドルは 1.3321 ドルから 1.3295 ドルまで軟調推移となり、ドル・スイスは 1.2117 フランから 1.2146 フランまで上昇。

【ニューヨーク市場寄付】ドル・円:117 円 74 銭、ユーロ・ドル:1.3289 ドル、ユーロ・円:156 円 52 銭、ポンド・

為替週間日誌

先週の動き

ドル:1.9567ドル、ドル・スイス:1.2139フラン。

【ニューヨーク市場概況】ドル・円はFOMC結果を控えて小動きが続いたが、ハト派FOMC声明を受けたドル売りに117円95銭から117円15銭まで急反落し、117円55銭で取引を終えた。ユーロ・ドルは欧米金利差縮小観測に伴う買いに1.3289ドルから堅調となり1.3350ドルのオプションバリアーをつけ、05年3月以来、約2年ぶりの高値1.3390ドルまで上昇、ほぼ高値1.3385ドルで引けた。ユーロ・円は米株式市場の大幅続伸を受けたリスク回避の動き後退に156円51銭から157円47銭まで上昇した。ポンド・ドルは1.9570ドルから1.9694ドルまで上昇し、ドル・スイスは1.2169フランから1.2084フランまで下落した。NY原油先物価格は59.61ドルで引けた(本日から取引限月変更)。

【ニューヨーク市場終値】ドル・円117.55、ユーロ・ドル1.3386、ユーロ・円157.37、ドル・スイス1.2097、ポンド・ドル1.9679、NYダウ12447.52、ナスダック2455.92。

東京-NYレンジ:ドル・円117.15-117.95、ユーロ・ドル1.3289-1.3390、ユーロ・円156.05-157.47

(22日)

東京:ドル・円は、クロス円の利食い売りで、117円66銭から117円25銭まで弱含みに推移した。ユーロ・円は、本邦輸出企業、欧州勢からの利食い売りで157円51銭から156円83銭まで下落した。ユーロ・ドルは、独財務省3月月報を受けて1.3412ドルから1.3366ドルまで下落した。ポンド・ドルは、1.9660ドルから1.9696ドル、ドル・スイスは、1.2076フランから1.2103フランで推移。豪ドル・円は、95円03銭から94円51銭、NZドル・円は、83円52銭から83円00銭、カナダ・円は、101円75銭から101円37銭、ポンド・円は、231円51銭から230円65銭で推移した。中国人民元:始7.7301元、高7.7310元、安7.7270元、7.7273元で推移。

海外:【ロンドン市場概況】東京引け際に発表された日本の2007年公示価格(全国平均で前年比+0.4%、16年ぶり上昇)を材料にした円買い一服後、ドルの買い戻しが優勢になり、ポンド・円などクロス円の買いにも連れ、117円30銭から117円92銭まで上昇した。ユーロ・円は156円91銭から157円45銭まで上昇した。英2月小売売上高の上振れを受けてポンド・ドルは1.9664ドルから1.9729ドルまで上昇、ポンド・円は231円20銭から232円19銭まで上昇し、ユーロ・ポンドは0.6801ポンドから0.6775ポンドまで下落した。ユーロ・ドルは1.3379ドルから1.3347ドルまで下落し、ドル・スイスは1.2089フランから1.2127フランまで上昇した。

【ニューヨーク市場寄付】ドル・円:117円73銭、ユーロ・ドル:1.3364ドル、ユーロ・円:157円32銭、ポンド・ドル:1.9690ドル、ドル・スイス:1.2112フラン。

【ニューヨーク市場概況】予想を下回る米新規失業保険申請件数が堅調な米雇用市場を示し、債券利回りが上昇に転じたことや、投信売り出し絡みの買いを受けて117円53銭から118円32銭まで上昇し、高値圏118円13銭で取引を終えた。ユーロ・ドルは、利食い売りや米金利上昇に伴う売りに1.3373ドルからストップロスを巻き込み1.3311ドルまで反落し、1.3330ドルで引けた。ユーロ・円は、米株式市場の高止まりによるリスク回避の動き後退や投信売り出しに絡んだ豪ドル・円の買いを受けて156円99銭から157円65銭まで上昇した。ポンド・ドルは1.9704ドルから1.9611ドルまで下落し、ドル・スイスは1.2098フランから1.2182フランまで上昇した。NY原油先物価格は、OPEC議長加盟国による減産の順守状況に関する発言で61.75ドルまで上昇し、61.69ドルで引けた。

【ニューヨーク市場終値】ドル・円118.13、ユーロ・ドル1.3330、ユーロ・円157.47、ドル・スイス1.2144、ポンド・ドル1.9648、NYダウ12461.14、ナスダック2451.74。

東京-NYレンジ:ドル・円117.25-118.32、ユーロ・ドル1.3311-1.3412、ユーロ・円156.83-157.65

(23日)

東京:ドル・円は、本邦輸出企業からのドル売り、ユーロ債償還に絡んだ円買いなどで118円19銭から117円87銭まで軟調に推移したものの、外貨建て投信設定に絡んだドル買いで118円26銭まで反発した。ユーロ債償還(約150億ユーロ)を受けて、ユーロ・円は157円59銭から157円07銭まで弱含んだものの、押し目買い圧力強く157円64銭まで反発した。ユーロ・ドルは1.3318ドルから1.3338ドルで推移した。ポンド・ドルは、1.9625ドルから1.9662ドル、ドル・スイスは、1.2139フランから1.2159フランで推移。豪ドル・円は、95円30銭から95円05銭、NZドル・円は、84円14銭から83円78銭、カナダ・円は、102円16銭から101円71銭、ポンド・円は、232円30銭から231円49銭で推移した。中国人民元:始7.7332元、高7.7345元、安7.7293元、7.7298元付近で推移。

東京レンジ:ドル・円117.87-118.26、ユーロ・ドル1.3318-1.3338、ユーロ・円157.07-157.64

週間要人発言

アジア・オセアニア

3/19

周小川中国人民銀行総裁

「現在のインフレ水準を懸念していない」

「輸出の伸び抑制策は、一部の輸出セクターを阻害するに過ぎない」

中国国家統計局局長

「貿易黒字削減には、中国人民元の上昇ではなく、天然資源の価格引き上げなど構造的な調整が必要」

3/20

日銀3月金融経済月報

「景気は緩やかに拡大」(足元の景気判断を据え置き)

「先行き景気は緩やかに拡大を続ける」

「CPIは目先原油価格反落の影響などから、ゼロ近辺で推移」

「CPIはより長い目でみるとプラス基調を続けていくと予想」

「生産は増加基調」(増加を続けているから修正)

「国内企業物価は目先弱含みないし横ばいで推移」

福井日銀総裁

「地価や為替は頭のどこかに置きながら金融政策を判断」

「世界市場の調整はこれまでのところ一種の健全な調整」

「市場の動き、実体経済への影響を含め冷静に注視」

「一部大都市の地価上昇はスピード感伴っている」「総裁再任は念頭にない」

「サブプライムローン問題、米経済を脅かすほど大きくはない」

「経済・物価情勢を丹念に点検し徐々に調整行うとのスタンスに変わりはない」

「米経済が潜在成長率上回る軌道に戻るのが標準シナリオ」

「2月決定会合中の報道、議案提出前で憶測と思われる」

「CPIは2月から3月にかけて若干マイナスになる可能性」

「決定会合中の報道、市場にかく乱的影響及び可能性あり極めて好ましくない」

「長い目でみてCPIプラス基調維持がフォワードルッキングな視点から重要」

3/21

コステロ豪財務相

「豪ドル高、オーストラリアの輸出業者に打撃」

「豪ドルがオープンな市場で取引されることを認めるのが政府の方針だ」

3/22

福井日銀総裁

「世界市場調整、先行きファンダメンタルズに即座に害及ぼすことない」

「市場の動きはまだ安心できない、実体経済への波及など注視」

「低金利期待が長期化すれば、息長い成長を阻害するリスク」

「経済・物価情勢に応じて、徐々に金利調整していく」

「物価に対する見方は最近も不変、0-2%で安定推移が念頭」

「物価が低ければ低いほどよいと思っているわけではない」

尾身財務相

「日銀決定会合で議決延期請求権は原則として行使しない」

藤井財務次官

「長期金利動向、引き続き十分注視していきたい」

「(長期金利)過度な上昇は持続的な景気回復に悪影響」

「(公示地価)かつてのバブルではなく、経済実態を反映した地価の動向」

週間要人発言

欧州

3/16

ウェーバー独連銀総裁

「ユーロ圏の物価上昇圧力が高まっており、07年末から08年にかけて2%を大きく上回る可能性がある」

シュタインブリュック独財務相

「ユーロ圏のインフレ率は第3・四半期に1.5%まで低下した後、2007年末に2%を上回る可能性」

「世界経済のファンダメンタルズは良好」「市場は調整を迎えている」

「ユーロには満足」「ヘッジファンドを監視する機関を明確にする必要」

「07年GDP成長は1.75%を上回る可能性」「ユーロ圏には大きなインフレの危険性はない」

「金利、エネルギーが困難なリスク」

パラモ欧州中銀専務理事

「インフレは金融現象」「中銀は時には資産価格への対策をとり得る」

3/19

ガルガナス・ギリシャ中銀総裁

「ECB、金利はピーク付近ではない」

「ユーロ圏のインフレにとって賃金交渉が最大のリスク」

「ECB、金利について基準となる水準はもっていない」

シュタインブリュック独財務相

「欧州経済はかなり良好」

「07年ドイツ経済成長見通しは1.75%だが見通しを上回る可能性高い」

リープシャー・オーストリア中銀総裁

「ECBは金利に関し事前約束はない」

「ECBは全ての経済データを分析、必要とされる行動をとる」

「ECBは価格圧力を抑制するため必要とされる事を実施」

3/20

リーカネン・フィンランド中銀総裁

「ユーロ圏の消費は予想以上に拡大する可能性」

「ユーロ圏の金融政策は依然として緩和気味」

独経済研究所(DIW)

「07年独GDP伸び率予想、2%前後に上方修正する可能性」

3/21

トリシェECB総裁

「最新の経済データは堅調な経済成長を示唆」「中長期的に物価安定の上方リスク」

「最近の利上げは、中長期的なインフレ期待が物価安定に沿った水準に引き続きしっかり抑制されることに貢献する」

「消費は、実質可処分所得の増加に伴い堅調さを増す」

「短期的な成長見通しのリスクは均衡」「長期的な成長見通しのリスクは下振れ」

「インフレ率は春から夏にかけて低下しそう」「インフレ率は年末に2%付近の見通し」

「原油価格と税、賃金がインフレリスク」「民間部門の融資は依然として堅調」

「G7は為替の動向に今後も注意する」「ユーロ圏の失業率は引き続き高すぎる」

「ユーロ圏の潜在成長率は2.25%付近」

「ユーロ圏のインフレは賃上げ反映し年内に上昇の公算」

「金融政策は引き続き緩和基調」

3/7-8英中銀金融政策委員会議事録

「政策金利の据え置きを8対1で決定」

週間要人発言

「ブランチフラワー委員が0.25%の利下げを主張」「リスクは均衡」
「金融市場の不安定さが、今月の金利据え置き決定要因になった」

3/22

独財務省3月月報

「米経済の鈍化とユーロ上昇は、ドイツの輸出セクターにとってリスク」

アルムニア欧州委員会委員

「EU各国は赤字削減を急ぐべき」

ジン独IFO所長

「ECBは追加利上げ行うべきでない」

「07年ドイツ成長率見通し1.9%、08年2.3%」

ジョーダン・スイス中銀理事

「追加利上げの必要性は後退」

「スイス経済は強く、07年GDP2%前後を予想」

「スイスフランの急激な、強い上昇は除外できず」

「スイス中銀はスイスフランや、政策金利の目標はない」

米国・カナダ

3/16

ラジャー・米大統領経済諮問委員会(CEA)委員長

「サブプライム住宅ローン市場不振は経済に波及せず」

「弱い住宅市場は本年の成長を押し下げる可能性」

「07年の米経済成長は3%前後」

3/21

米FOMC声明

「全会一致で政策金利据え置き決定」「将来の政策変更はインフレと経済の見通し次第」

「経済は緩やかなペースで拡大」「インフレは引き続き主要懸念」

「住宅市場は調整過程」「最近の指標は強弱混合」「インフレ圧力はいずれ低下」

「コアインフレはいくらか上昇」「原料使用の高い使用度がインフレ圧力を維持」

ポールソン米財務長官

「外国資本の米債保有には満足」「米経済は、消費が強く、インフレは抑制され健全」

ブラウン英財務相

「08、09年の英経済成長率は2.5-3.0%の見通し」「08、09年の英インフレは2.0%に低下」

バーカー英金融政策委員

「我々の仕事は経済においてインフレを低水準に維持、安定させる事」

3/22

ラッカー米リッチモンド連銀総裁

「信用市場の影響に関する研究は適切」

コーン米FRB副議長

「一部金融資産価格決定、完全には理解されていない」

クロズナーFRB理事

「デリバティブの驚異的な伸びは有用」

コール米連銀銀行監督規制局長

「連銀は、住宅ローン市場問題の拡大に懸念」

「サブプライムの借入者には難問に直面する可能性」

「サブプライム市場からスタンダード市場への波及はない」

週間要人発言

「連銀はリスク管理、消費者保護の弱さを観察」

その他・国際機関等

3/16

ラトIMF専務理事

「サブプライム住宅ローン返済不履行問題が更なる米景気減速をもたらしたとしても、他の国の経済拡大とで影響は相殺される」

「米国の経済は大変強く、堅調」「世界経済は5%小幅下回る拡大」

週間経済指標一覧

アジア・オセアニア

3/20

豪・10-12月期住宅着工件数:前期比-0.8%(前期+0.5%)

独・2月生産者物価指数:前月比+0.3%、前年比+2.8%(前年比予想+2.8%、1月+3.2%)

【金融政策】日銀金融政策決定会合:現行の金融政策維持を全会一致で決定

周小川中国人民銀行総裁

「外貨準備を小規模削減する」

「中国は外貨準備を一段と積み上げる意向ない」

3/22

日・2月貿易黒字:+9796億円(前年比+7.7%)

対米貿易黒字:+8068億円(前年比+9.2%)

対EU貿易黒字:+4463億円(前年比+33.3%)

対中貿易赤字:-3081億円

大企業全産業の景況判断:1-3月+6.2%、4-6月+4.2%、7-9月+9.9%

3/23

日・対内外証券投資(3/11-17)

対外債券投資:57億円の流出超

対内債券投資:8684億円の流入超

対内株式投資:1051億円の流出超

日・1月全産業活動指数:前月比+0.7%

欧州

3/16

仏・1月経常収支:-28億ユーロ(12月-27億ユーロ -29億ユーロ)

3/19

英・3月住宅価格(ライトムーブ):前年比+12.2%(2月前年比+11.5%)

3/20

英・2月消費者物価指数:前年比+2.8%(予想+2.7%、1月+2.7%)

英・2月小売物価指数:前年比+4.6%(予想+4.3%、1月+4.2%)

3/21

独・1月小売売上高改定値:前月比-4.3%(速報-5.1%)

スイス・2月貿易収支:+13.81億スイスフラン(1月+12.94億スイスフラン)

3/22

英・2月小売売上高:前月比+1.4%(予想+0.7%、1月-1.5% -1.8%)

ユーロ圏・1月貿易収支:-78億ユーロ(予想+12億ユーロ、12月+32億ユーロ +25億ユーロ)

ユーロ圏・1月鉱工業受注:前月比-0.2%(予想-1.0%、12月+2.8%)

米国・カナダ

3/16

米・2月消費者物価指数(CPI):前月比+0.4%(予想+0.3%、1月+0.2%)、前年比+2.4%(予想+2.3%、1月+2.1%)

米・2月コアCPI:前月比+0.2%(予想+0.2%、1月+0.3%)、前年比+2.7(予想+2.7%、1月+2.7%)

米・2月鉱工業生産:前月比+1.0%(予想+0.2%、1月-0.3% -0.5%)

米・2月設備稼働率:82%(予想81.3%、1月81.4% 81.2%)

米・3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報:88.8(予想90.0、2月91.3)

週間経済指標一覧

3/19

米・3月NAHB住宅市場指数:36(予想38、2月39 40)

加・1月卸売売上高:前月比-0.5%(予想-0.6%、12月+2.7%)

加・1月国際証券投資状況:37.64億カナダドルの売り越し(予想5億カナダドルの買い越し、12月30.53億カナダドルの売り越し)

3/20

・2月住宅着工件数:前月比+9%、152.5万戸(予想145万戸、1月139.9万 140.8万戸)

米・2月住宅着工許可件数:前月比-2.5%、153.2万戸(予想155万戸、1月157.1万戸)

加・2月消費者物価指数(CPI):前月比+0.7%(予想+0.3%、1月+0.1%)、前年比+2.0%(予想+1.6%、1月+1.2%)

加・2月コアCPI:前月比+0.5%(予想+0.3%、1月+0.1%)、前年比+2.4%(予想+2.1%、1月+2.1%)

3/21

米・週次MBA住宅ローン申請指数(3/16):前週比-2.7%(前回+2.8%)

加・1月小売売上高:前月比-0.2%(予想-0.2%、12月+2.2% +2.3%)

加・1月小売売上高(除自動車):前月比+0.3%(予想+0.2%、12月+1.9% 2.0%)

加・2月景気先行指標指数:前月比+0.7%(予想+0.4%、1月+0.5%)

【金融政策】米FOMC結果:FF金利の誘導目標水準5.25%に据え置き

3/22

米・先週分新規失業保険申請件数:31.6万件(予想32.4万件、前回32万件 31.8万件)

米・2月景気先行指数:前日比-0.5%(予想-0.3%、1月-0.3% +0.1%)

その他・国際機関等

3/22

南ア・10-12月期経常収支:-1430億ランド(予想-1280億ランド、前期-999億ランド)

南ア・10-12月期経常収支のGDP比:-7.8%(予想-6.8%、前期-5.7%)

為替週間見通し

「日米経済指標を材料に方向探る」

来週のドル・円相場は、世界株価動向を材料にした売り買いの動きがおさまりつつあるなかで、米 FOMC 声明を受けて盛り返した米利下げ観測の推移や、日本の追加利上げのタイミングなどをみながら方向を探ることになる。経済指標では、米国の2月新築住宅販売件数、3月消費者信頼感指数、3月シカゴ地区購買部協会景気指数など、日本の2月全国・3月東京都部消費者物価指数や2月鉱工業生産速報値が注目される。

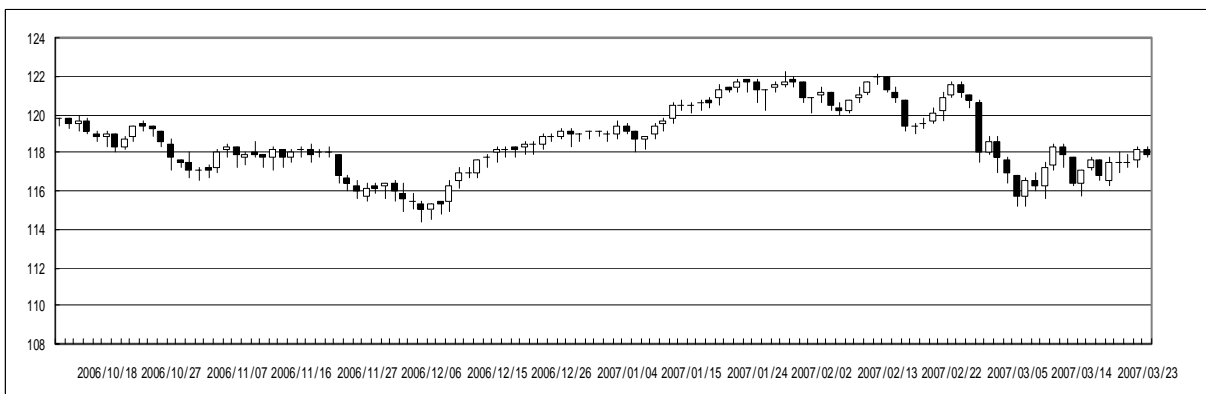
米国の金融政策については、21日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)声明で、「追加的な金融引き締めが必要になる可能性がある」との文言が削除され、引き締めバイアスへの言及がなくなり、政策スタンスがやや中立的になったことから、利下げ観測が盛り返す状況にある。現時点でマーケットが見込む利下げ確率は、第2四半期までで30%台、第3四半期まででは80%台になっている。また、FOMC 声明では、景気の総括判断が1月の「最近の指標はやや景気が強いことを示唆している」から今回は「最近の指標は強弱混在」へと下方修正、住宅市場については「安定化の兆しが見られる」からサブプライム問題を受けて「調整は進行中」に変更されており、今後も米国の経済指標が注目される状況が続くことになる。

週内発表の米経済指標で注目されるのは、先ず、26日の2月新築住宅販売件数で、予想は99.0万戸。2月末のサブプライム問題噴出以前の数字であるが、先月同様振れば市場を動かす可能性がある。先行指標である1月の販売保留指数(PHSI)の下落からはあまり強い数字は期待できそうにない。次に、28日の2月耐久財受注で予想は+2.3%だが、1月数字(前月比-7.8%)がリスク資産市場の調整の一因だったこともあり、注目される。3月初頭に米景気不透明感が強まる以前の数字ではあるが、2月はISM指数で受

注指数は改善しており、反動増程度は見込まれる。そして、30日の2月コア個人消費支出(PCE)価格指数で、予想は前年比+2.3%。米 FOMC でインフレリスクに言及があったなか、FRB の許容レンジ(1%-2%)上限を1月以上に上ぶれば米長期債の売り要因になる可能性もある。また、3月シカゴ地区購買部協会景気指数の予想は49.6で、先月の下ぶれの後、若干リバウンドすると見込まれている。(2月は方向性がずれたが)4月2日の3月ISM製造業指数の市場予想を固める点からも注目される。

日本の金融政策については、追加利上げは当面見込めないとの見方が大勢という状況は変わらない。19-20日の日銀金融政策決定会合では政策金利の据え置きが決定され、福井日銀総裁は会見で「経済・物価情勢を丹念に点検し徐々に調整行くとスタンスに変わりはない」と述べた。また「地価や為替は頭のどこかに置きながら金融政策を判断」「一部大都市の地価上昇はスピード感伴っている」と物価以外の要因への言及がみられたが、30日発表の2月全国消費者物価コア指数(除く生鮮品)の予想は前年比-0.1%となっている。福井総裁自らコアのマイナス転落予想を再三表明してきただけにこの程度なら円債市場は順調にこなす可能性があるが、指標のインフレ指数がマイナス予想のなか利上げする姿勢が海外投資家にどう映るかは不明である。同日の2月鉱工業生産速報値の予想は前月比-0.8%。製造業生産予測指数のマイナスを受け、前月比減少が見込まれる一方、その低下幅ほどには低下しないとの予想が多い。その乖離の程度を見極める展開となる。

予想レンジ:ドル・円 116円00銭-119円00銭
ユーロ・ドル 1.3150-1.3450ドル



コラム/為替総合分析

ゴルフと相場(41)グリーン上のグリーンスパン

マエストロ伝説

グリーンスパン前米 FRB 議長は、1926 年 3 月 6 日、ニューヨーク市ブルックリンで、ユダヤ系の家庭(父：株式ブローカー)に生まれた。

同年代の著名な米国人には、マリリン・マンロー(6/1/26-8/5/62)がいる。

高校卒業後、ジュリアード音楽院へ進み、プロのバンドでサクソ奏者になる。

1950 年、ニューヨーク大学で経済学修士を取得、コロンビア大学へ進学したが中退した。

1968 年ニクソン政権、1974 年フォード政権で大統領経済諮問委員会(CEA)委員長に就任。

1987 年 8 月 11 日(61 歳)、レーガン政権で、カリスマ FRB 議長ボルカーの後任として第 13 代 FRB 議長に就任した。以後、ブッシュ(父)政権、クリントン政権、ブッシュ(子)政権と、5 期 18 年半にわたり、米国及び世界の金融市場の指揮者として君臨した。

2006 年 1 月 31 日の退任時には、『マエストロ(巨匠・名指揮者)』『史上最強のセントラルバンカー』『歴代最高の FRB 議長』と冠せられたグリーンスパンも、就任当時は、『Mr Reagan's New Money Man』(Newsweek 誌)と呼ばれ、その能力は未知数だった。

マエストロ伝説は、ブラック・マンデー(1987 年 10 月 19 日(月)NY ダウ 508 ドル暴落 22.6%)という市場の審判への対応が序章となる。

「米連邦準備理事会(FRB)は、アメリカ合衆国の中央銀行としての使命に沿って、本日、経済・金融システムを支えるため、流動性の供給源としての役割を果たす用意があることを確認する。」

この緊急声明で、世界同時株式市場暴落は終息し、グリーンスパンは、FRB 議長としての資格試験に合格した。

1996 年 12 月、当時 6400 ドル台だった NY ダウに対して、『根拠無き熱狂 irrational exuberance』と、バブル化の懸念に警鐘を鳴らした。

2001 年 9 月の米同時多発テロ後、米国及び世界経済への脅威として「地政学的リスク geopolitical risk」を警告した。

グリーンスパンは、株式・金融市場を重視するあまり、金融緩和政策に傾斜し、株式市場の IT バルブ、住宅市場バブルを引き起こしたと批判されている。

金融政策変更(81 回)は、利上げ 40 回、利下げ 41 回、ややハト派なのかもしれない。

別れたのはゴルフのせい? 「he wanted to play golf」

グリーンスパンは、1952 年(26 歳)、ジョアン・ミッチェルと結婚したが、わずか 10 ヶ月で別れた。彼が、ジョアンをデートに誘った時のアプローチが伝えられている。

スポーツ観戦

ブロードウェイでのミュージカル観劇

カーネギーホールでの音楽鑑賞(これが選ばれた)

別れた理由は、ジョアンによると、互いに尊敬できなくなったとか、嫌いになったとかではなく、人生観、価値観の相違であっただけらしい。

野球少年だったグリーンスパンはゴルフに熱中したらしく、共有する時間が短かったのかもしれない。

ジョアンは、「アランは数字がすべての人です。数字は自分を裏切らないというのが口癖でした。」(文春 2000 年 3 月号)と述懐している。

グリーンスパンは、1997 年(72 歳)、現在の夫人アンドレア・ミッチェル(当時 50 歳・元 NBC 放送リポーター)と 2 度目の結婚をした。アンドレアは、グリーンスパンのプロポーズの言葉が曖昧、難解であったためプロポーズと気づかず、グリーンスパンは明確な言葉で再度プロポーズしたと伝えられている。

コラム/為替総合分析

米国データウォッチ

3月 FOMC レビュー : 中立へ半歩

22日未明結果が判明した FOMC では、市場の 100% の予想通り、政策は 5.25% で現状維持であった。しかし、市場の反応に明らかなように、声明文は、ややハト派的であった。どこがどう変わったかを含め、今後の Fed 政策へのありうべき政策変更を示唆している点につき、論じたい。

さて、声明では、まず前回と総じて変わらなかった部分として、「インフレ・リスク」への言及である。1月31日 FOMC では「若干のインフレ・リスクが残存する」が、「インフレ圧力はいずれ緩和される」とし、今回は、(疑いなく、先週にかけてのインフレ指標をうけ、)「最近のコア・インフレに関する指標はやや高止まりして」おり、「FOMC の最大の政策的関心事は、インフレが予想通り改善しないことだ」としている。

前回から変わったのは、景気の総括判断であり、1月は「最近の指標はやや景気が強いことを示唆している」としたのを、今回は、(安定している雇用統計、やや弱い小売指標などをうけ)「最近の指標は強弱混在」と下方修正している。そして、住宅市場については、「安定化の兆しが見られる」としたのを、サブプライム問題の噴出をうけ、「調整は進行中」に変更している。

そして、これが市場の最も注目した点であるが、前回、「追加的引締め幅とタイミングは・・・データ次第」としたのを、「将来の政策調整は・・・データ次第」と変更した点である。

以上をどう読むかであるが、(ソフト・ランディング派の)エコノミストのいうように、「Fed は相変わらず、インフレに軸足を置いて、利上げバイアスを維持している」とする解釈は、今回、将来の政策のコースについて、追加引締めという文言をドロップした以上、やや無理であろう。一方で、政策について、「暗黙の中立スタンスを採用した」という、市場に近いところから聞かれる解釈も、「主要な関心事がインフレ」としている点からはやはり読み込みすぎといえよう。フォワード・ルッキングに政策を運営する観点からは、遅行指標であるインフレにいたずらにかかわりすぎて実体経済の悪化に鈍感でいるリスクは踏まえつつも、一部先行指標と金融アセット市場の動きに過剰反応することも避けたい。サブプライム問題などからの金融システムへの大きなショックもまだ見られない中、政策の断絶の印象を与えることも得策ではないと判断されたのであろう。こうした考慮、そして、FOMC 内部にあるだろう景気・インフレに関する強弱・タカ・ハトの意見の対立の妥協の産物として、今回の声明文になったものと見られる。Fed は、明らかに、中立スタンスへ半分歩を進めたものの、まだ逆サイドのリスクが顕在化した場合へのフリーハンドは維持している。それは景気の経路に関する、Fed の外部の、少なくともエコノミストレベルでの意見対立とも照応している、といえよう。

筆者は、今回、もしかしたら中立スタンスも、としたが、これは明らかにハズレた。しかし、景気の循環的モメンタム・過去の Fed の政策サイクルからすると、いずれ中立、そして緩和へと進むものとみている。今回は、その半歩、と位置付けられよう。

チャート分析



ドル・円:118.13 円 (3月23日分析時点相場水準)

【短期トレンド】 中期抵抗線 118.50 円の攻防

- ・陽線新高値 18 手で 122.20 円まで上昇後、118.98 円まで反落、121.64 円まで反発、115.16 円まで反落、118.50 円まで反発。
- ・中期分岐線:116.75 円(147.64 円 ~ 135.20 円 ~ 121.40 円)の攻防に要注意。
- ・全値戻し 114 円 43 銭の可能性は依然として残されている。
- ・ダブルボトム(115.16 円 ~ 115.76 円)の可能性 118.50 円を上抜ける必要性

【中期トレンド】 上昇トレンド 中期支持線:116.75 円(147.64 円 ~ 135.20 円 ~ 121.40 円)

第 1 波動:101.67 円 ~ 121.40 円(+19.73 円)

第 2 波動:121.40 円 ~ 108.97 円

第 3 波動:108.97 円 + 19.73 円 = 128.70 円 (第 1 波動 = 第 3 波動)

フィボナッチ・リトレースメント目標値:124 円

【長期トレンド】 上昇トレンド 長期支持線:112.38 円(358.44 円 ~ 278.50 円 ~ 263.65 円)

・三角保ち合い上げの場合 :130 円+80 円 = 210 円 (2010 年-2014 年)

・逆ヘッド&ショルダーズ完成の場合:130 円+73 円 = 203 円 (2010 年-2012 年)

	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30
上値抵抗線	119.10	119.09	119.09	119.08	119.07
下値支持線	116.48	116.57	116.66	116.75	116.84

【メイン・シナリオ】 押し目買い

ドル買い水準:118.00 円 損切り水準:117.50 円 利食い水準:119.00 円

【サブ・シナリオ】 戻り売り

ドル売り水準:118.50 円 損切り水準:119.00 円 利食い水準:115.00 円

チャート分析



ユーロ・円:157.47 円 (3月23日分析時点相場水準)

【短期トレンド】

159.63 円まで上昇し、ユーロ導入後の高値を更新した。
 150.74 円まで反落後、157.65 円まで反発しており、上昇トレンド再開の可能性が高まりつつある。
 ダブルボトム(150.74 円 ~ 152.67 円)の可能性

【中期トレンド】上昇トレンド: 目標値 ユーロ発足前 1998 年高値 162.60 円

【長期トレンド】上昇トレンド: 目標値 逆ヘッド&ショルダーズ 200.00 円

	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30
上値抵抗線	160.00	160.00	160.00	160.00	160.00
下値支持線	155.23	155.87	156.19	156.51	156.83

【メイン・シナリオ】押し目買い

ユーロ買い水準: 157.00 円 損切り: 156.50 円 利食い水準: 159.00 円

【サブ・シナリオ】戻り売り

ユーロ売り水準: 159.00 円 損切り: 160.00 円 利食い水準: 157.00 円

週間スケジュール

経済カレンダー

3月26日～3月30日 全て日本時間で表示

日付	曜日	国内 海外	時間	内容	市場コンセンサス	前回数値
3月26日	月	国内	11:00	民生用電子機器国内出荷(2月、電子情報技術産業協会)		
			14:00	金融政策決定会合、議事要旨(2/20、2/21分、日本銀行)		
				決算・モロゾフ(2217)、光彩工芸(7878)		
		海外	23:00	米・新築住宅販売件数(2月)	4.6%	-16.6%
23:00	欧・ユーロ圏財務相会合					
3月27日	火	国内	08:50	企業向けサービス価格(2月、日本銀行)	0.6%	0.6%
			10:00	アサヒビール、株主総会開催		
				3月末分割などの権利付き最終日		
		海外	15:45	仏・住宅着工・着工許可件数(2月)		着工、-11.1%
	17:00		独・Ifo企業景況指数(3月)	111.2	111.6	
	17:30		英・総合事業投資(10 - 12月)	3.3%	3.3%	
	23:00		米・消費者信頼感指数(3月)	109.0	112.5	
	3月28日	水	国内	10:00	麒麟ビール、株主総会開催	
17:00				半導体製造装置受注・販売統計(2月、日本半導体製造装置協会)		受注、45.5%
				トヨタ、ホンダ、日産自など自動車7社、2月の生産実績を発表		
海外			17:00	欧・マネーサプライ(2月)	M3,9.9%	M3,9.8%
	17:30	英・経常収支(10 - 12月)	-8.5Bボンド	-9.4Bボンド		
	20:00	米・MBA住宅ローン申請指数(先週分)		-2.7%		
	21:30	米・耐久財受注(2月)	3.0%	-7.8%		
3月29日	木	国内	08:50	商業販売統計(2月、経済産業省)	大型小売店、0.5%	大型小売店、-0.4%
			08:50	対外対内証券売買(先週分、財務省)		
				楽天、サッポロ、ノーリツ、ブリヂストン、山崎製パン、株主総会開催		
		海外	16:55	独・失業率(2月)	9.2%	9.3%
	17:30		英・消費者信用残高(2月)	1.1Bボンド	1.1Bボンド	
	21:30		米・国内総生産確定値(10 - 12月)	1.7%	1.7%	
	21:30		米・失業保険新規申請件数(先週分)	320K	316K	
	3月30日	金	国内	08:30	家計調査(2月、総務省)	消費支出、0.4%
08:30				完全失業率(2月、総務省)	4.0%	4.0%
08:30				消費者物価指数(全国2月と東京都区部3月中旬、総務省)	全国、-0.1%	全国、0.0%
08:30				有効求人倍率(2月、厚生労働省)	1.06	1.06
08:50				鉱工業生産(2月、経済産業省)	-0.8%	-1.7%
08:50				貸出約定平均金利(2月、日本銀行)		
13:00				自動車生産台数(2月、日本自動車工業会)		4.2%
13:00				自動車輸出台数(2月、日本自動車工業会)		15.8%
13:30				石油統計速報(2月、経済産業省)		原油輸入、-0.6%
14:00				建設工事受注額(2月、国土交通省)	0.6%	33.9%
14:00				住宅着工件数(2月、国土交通省)	-2.8%	-0.7%
16:30				日本銀行、統計・統計書の公表予定(4 - 9月)		
19:00				外国為替平衡操作の実施状況(3月、財務省)		
				六本木の東京ミッドタウンがオープン		
海外			15:40	仏・消費者信頼感指数(3月)	-23	-23
			15:50	仏・生産者物価指数(2月)	0.2%	0.1%
			17:30	英・GFK消費者信頼感指数(3月)	-8	-8
			18:00	欧・業況判断指数(3月)	1.48	1.56
			18:00	欧・失業率(2月)	7.3%	7.4%
			18:00	欧・消費者物価指数(3月)	1.9%	1.8%
21:30	加・鉱工業製品・原料価格指数(2月)	鉱工業、0.6%	鉱工業、-0.1%			
21:30	加・国内総生産(1月)	0.2%	0.4%			
21:30	米・個人所得・消費支出(2月)	支出、0.3%	支出、0.5%			
22:45	米・シカゴ購買部協会景気指数(3月)	49.5	47.9			
23:00	米・建設支出(2月)	-0.5%	-0.8%			
25:30	米・バーナンキFRB議長、「地域社会金融」に関する会合でスピーチ					
	独・小売売上高指数(2月)		-4.3%			

(注) : K = 1000, M = 100万, B = 10億

主要国経済指標現況

	米国		日本		ユーロ圏		英国		
政策金利	5.25%		0.50%		3.75%		5.25%		
次回金融政策決定会合	2007年3月20-21日		2007年3月19-20日		2007年4月12日		2007年4月5日		
経済成長指標									
国内総生産 GDP (SAAR)	2.2%	4Q	5.5%	4Q	前年比3.3%	4Q	前年比3.0%	4Q	
物価指標									
GDPデフレーター	1.7%	4Q	-0.9%	4Q					
消費者物価指数	2.4%	2月	0.0%	1月	1.8%	2月	2.8%	2月	
コア消費者物価指数	2.7%	2月	0.0%	1月			1.7%	2月	
生産者物価指数	2.5%	2月	1.8%	2月	2.9%	1月	2.2%(産出指数)	2月	
コア生産者物価指数	1.8%	2月					2.7%(産出指数)	2月	
コアPCE物価指数	2.3%	1月							
貿易指標									
貿易収支	-591億ドル	1月	9796億円	2月	-78億ユーロ	1月	-62.26億ポンド	1月	
経常収支	-1958億ドル	4Q	1兆1944億円	1月	+50億ユーロ	12月	-94億ポンド	3Q	
企業活動指標									
鉱工業生産指数	1.0%	2月	-1.7%	1月	-0.2%	1月	0.1%	1月	
	コア耐久財受注	-3.1%	1月	コア機械受注	3.9%	1月	鉱工業受注	-0.2%	1月
企業在庫	0.2%	1月	鉱工業在庫	-1.0%	1月				
企業センチメント	ISM製造業景気指数	52.3	2月	大企業製造業DI	25	12月	独FO景況指数	107.0	2月
	ISM非製造業景気指数	54.3	2月	大企業非製造業DI	22	12月	独ZEW景況感指数	5.8	3月
	シカゴPMI	47.9	2月	設備投資計画	12.4%	12月			
	景気先行指数	0.1%	1月	景気先行指数	40.9%	1月			
雇用指標									
失業率	4.5%, NFP+9.7万人	2月	4.0%	1月	7.4%	1月	2.9%	2月	
個人消費指標									
個人消費支出	0.5%	1月	実質消費支出	0.6%	1月				
小売売上高	0.1%	2月	-0.8%	1月	-1.0%	1月	+1.4%	2月	
	ミシガン大消費者信頼感指数	88.8	3月	消費者態度指数	48.1	1月	GfK消費者信頼感指数	4.4	2月
住宅指標									
新築住宅販売件数	93.7万戸	1月					HBOS住宅価格	1.8%	2月
中古住宅販売件数	646万戸	1月					ネーションワイド住宅価格	0.7%	2月
建設許可件数	153.2万戸	2月	建設工事受注YoY	-1.3%	1月				
住宅着工件数	152.5万戸	2月	9.2万戸	1月					
	豪		NZ		カナダ		中国		
政策金利	6.25%		7.50%		4.25%		6.12%		
次回金融政策決定会合	2007年4月4日		2007年4月26日		2007年4月24日		2006年8月19日0.27%引き上げ		
経済成長指標									
国内総生産 GDP	2.8%	4Q	1.4%(前年比)	3Q	0.4%	12月	前年比10.4%	4Q	
物価指標									
消費者物価指数	3.3%	4Q	2.6%	4Q	2.0%	2月	2.7%	2月	
生産者物価指数	3.5%	4Q	5.3%	4Q	3.6%	12月	2.6%	2月	
貿易指標									
貿易収支	-8.76億豪ドル	1月	-8.33億NZドル	1月	50億加ドル	12月	158.8億米ドル	1月	
経常収支	-120.84億豪ドル	3Q	-31.14億NZドル	3Q	30億加ドル	4Q			
企業活動指標									
鉱工業生産指数					-2.1%	1月	18.5%(前年比)	1-2月	
企業在庫	-0.9%	3Q							
企業センチメント					Ivey購買部協会指数	53.8	1月		
					景気先行指数	0.7%	2月		
雇用指標									
失業率	4.6%	2月	3.7%	4Q	6.2%	1月	4.2%	3Q	
個人消費指標									
小売売上高	0.9%	1月	0.5%	1月	-0.2%	1月	14.7%(前年比)	1-2月	
住宅指標									
住宅価格指数	2.2%	4Q	0.9%	2Q	0.5%	11月			
建設許可件数	-1.5%	12月	-0.2%	1月	-7.8%	12月			
住宅着工件数	-0.8%	4Q			24.9万戸	1月			

FISCO FX Report

Fisco Forex

週刊 為替情報誌

発行所 株式会社フィスコ

発行人 三木 茂

編集人 林 謙二 フィスコ為替・金利チーム

お問い合わせ

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-28 九段ファーストプレイス 7F

電話: 03-5212-8770 (お客様コール)

FAX: 03-5212-8789

EMAIL: webmaster@fisco.co.jp

詳しいご案内やサンプルはフィスコホームページでご覧下さい。

<http://fisco.jp/>

ご購入のお申し込みはホームページ内「クラブフィスコ」へ。

マーケット展望	月額	6,300円	年払	63,000円
IPOナビゲーター リミテッド	月額	6,300円	年払	63,000円
スタンダード	月額	10,500円	年払	105,000円
アディショナル	月額	21,000円	年払	210,000円
テクニカル分析 MaP	月額	5,250円		
フィスコ・FX	月額	6,300円	年払	63,000円
マーケット データ ウォッチ (MDW)	月額	6,300円	年払	63,000円
有料メールマガジン 各種	月額	315円 ~ 840円		

表記料金は消費税込みの金額です。

表記料金は個人の方限定でありますので、法人の方はフィスコまでお問い合わせください。

FISCO Forex Report

FISCO FX Report

FISCO Forex

週刊 為替情報誌

2007年3月26日号



<http://fisco.jp/>

<http://forex.fisco.co.jp/fxnighter/>

最終的な投資判断はご自身でお願いいたします。本文、データなど当レポートの内容に関する正確性、信頼性、安全性などから起因する直接的、間接的あるいは程度を問わず、(株)フィスコおよびその制作者、データ提供者、その他関係者は一切の責任、損害賠償に応じません。また、当レポートの本文、データなどは著作権法などの法律、規制により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外規定は除く)。以上の点をご了承の上、当レポートをご利用ください。